

## 「研究大学強化促進事業」令和元年度フォローアップ結果

機 関 名	令和元年度フォローアップ結果
京 都 大 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業全体が極めて順調に進捗していると判断される。今後も成果と取り組みの継続に期待したい。</li> <li>○成果をあげている「融合チーム研究プログラム(SPIRITS)」において、従来に加えて「人文知の未来形発信」重点領域を新設して京都大学ならではの知識を広く世界に発信する取り組みは高く評価される。</li> <li>○既存の海外拠点(ASEAN、欧州)に加えて、新たに北米拠点とアフリカオフィスを設置するなど、国際交流活動を一層充実したことは、学術交流活動のみならず学生の学修の質と幅の向上に期待したい。</li> <li>○大学の戦略・企画調整のための戦略調整会議(カウンスル)をサポートするプロボストオフィスへの URA の兼務、エビデンスベースの IR 機能の一層の強化及び部局へのデータ提供スキームの高度化、独自に開発した京大 URA 育成カリキュラムの継続実施及び学内外への情報提供、独自の WEB サイトや SNS を用いた URA の活動成果等のタイムリーな発信などを実施していることは高く評価される。</li> <li>○これらの幅広いマネジメント及び取り組みの成果が、日本の URA システムの先導的モデル大学として実行・展開されていることが高く評価される。</li> </ul>

## 平成 30 年度フォローアップ結果への対応状況と今後の事業展開について

機関名	京都大学				
統括責任者	役職	学長	実施責任者	部署名・役職	理事・副学長
	氏名	山極 壽一		氏名	湊 長博

### 平成 30 年度フォローアップ結果

- ・ 将来構想 1、2 及び 3 とともに、日本の大学改革の先頭に立った取組みとして評価できる。また、URA 教育への広範かつ積極的な貢献についても高く評価できる。
- ・ 貴学が日本の大学のトップになることに止まらず、「教育・研究・社会貢献」の一体的実践の世界レベル化に向けてトップダウンとボトムアップの両方向から創意工夫する文化の一層の強化に期待したい。特に社会でリーダー的存在となる博士課程修了者の質と量の向上にも取り組むことが望まれる。

### 将来構想の達成に向けた現状分析

#### 将来構想 1 【越境する「知」「人」を生み出し循環させる大学】

##### ① 平成 30 年度フォローアップ結果等コメントへの対応状況

研究力強化、社会的課題解決に向けて、国際共同研究、学際研究、人文・社会科学研究、産官学連携といった多面的な取組を組み合わせた支援プログラムを URA「全学一元化体制」のもと着実に継続実施。特に、博士課程人材を含む次世代研究者（Early Career Researcher: 以下 ECR）の質と量の増強に資する支援を促進し、その達成状況を測るため指標⑧、⑨（中間的アウトカム（2019 年度-2020 年度））を新たに設定。

##### ② 現状の分析と取組への反映状況

- 成果を上げている融合チーム研究プログラム（SPIRITS）において、従来の【国際型】【学際型】【産官学共創型】に加えて「人文知の未来形発信」重点領域を新設。人文・社会科学分野で培われてきた知識を広く世界に発信する取組を推進。
- 新たにオープンイノベーション機構を設置。既設の事業子会社「京大オリジナル株式会社」、産官学連携推進本部と併せて連携強化。産官学連携の推進をさらに加速。
- 既存の海外拠点（ASEAN・欧州）に加えて新たに北米拠点とアフリカオフィスを設置。日欧 ASEAN の三極連携機能の構築により部局の国際交流活動を支援するとともに、学術交流活動や教育・学生交流活動に関する調査及び情報収集を推進。
- On-site Laboratory の設置と運営支援窓口を構築。本窓口を通じて本学 WPI アカデミー拠点（iCeMS）における拠点形成の経験・ノウハウを展開し、海外機関等と活発な研究交流を行い、世界をリードする最先端研究を推進するとともに、優秀な外国人留学生の獲得、産業界との連携の強化等、大学への波及効果が見込める様々な取組を推進。
- 博士課程人材を含む ECR 対象に実施したヒアリング調査（100 件以上）やアンケート調査の結果を分析することで現状を把握し、それらの分析結果を戦略調整会議（カウンスル）小委員会に提供して、学内の若手ポスト確保の施策策定に貢献。
- 上記の ECR 対象のヒアリング調査やアンケート調査分析結果を活用し、ECR を対象とする学内支援

組織との連携のもとで、ECR への支援情報を集約させたポータルサイトの基本設計を実施。

- 外国人研究者に対する支援を全学的な研究支援プログラムとして位置付け、URA の支援リソースを強化。研究費公募等、「英語による情報発信」の質を向上。

#### 将来構想 2 【URA が定着し経営を支える大学】

##### ① 平成 30 年度フォローアップ結果等コメントへの対応状況

大学の経営・IR 機能への URA による支援を着実に前進。URA 雇用の自主財源化を拡大し無期雇用人数を拡大。

##### ② 現状の分析と取組への反映状況

- 大学運営の戦略・企画調整のための戦略調整会議（カウンスル）により、トップダウンの方針とボトムアップの意思を調整。大学改革に資する包括的課題の戦略立案や計画の実行を着実に推進。戦略調整会議をサポートするプロボストオフィスに URA が兼務。
- エビデンスベースの適切な大学運営に資するよう IR 機能をさらに強化。新たな世界大学ランキングへの対応スキームを構築するとともに、部局へのデータ提供スキームも高度化。
- 更なる定着化を目指し、自主財源雇用の URA に対して勤務評定を踏まえた無期雇用化を拡充。

#### 将来構想 3 【日本の URA システムの先導的モデル大学】

##### ① 平成 30 年度フォローアップ結果等コメントへの対応状況

- 全国的なロールモデルとなるべく、多面的・先進的な活動成果を学外に展開する取組を着実に推進。

##### ② 現状の分析と取組への反映状況

- 独自に開発した京大 URA 育成カリキュラムを本学 URA に対して継続実施。Level1 では新たな取り組みとして対象を学内他部局の URA 関連職にも拡大。また、Level2 では研究支援プログラムの企画・運営を担うリーダーを幅広く養成。
- 国内で検討されている「リサーチ・アドミニストレーターの資格認証制度」の調査資料として京大 URA 育成カリキュラムのシラバスや教材を提供。認証制度に資するカリキュラムを学外にも展開できるよう関連団体・大学等と協働。
- 独自の WEB サイトを用いて、URA の活動成果を改訂し継続的に発信。また独自の SNS（Facebook・Twitter）を運用し、活動や支援情報をタイムリーに発信。

#### ロジックツリー・ロードマップの利活用・横展開状況

- ロジックツリー・ロードマップに基づいて、本学 URA が支援プログラムを開発（20 件）。起案時には、プログラム毎にロジックモデルの作成を実施。
- ロジックモデルは、京大 URA 育成カリキュラム Level2 の中で作成方法とその活用について演習を通じて細かく指導。URA だけでなく、学内他部局の事務職員・URA 関連職にも紹介し、学内で展開する取組を推進。
- 本学 URA による支援プログラムについては四半期毎に進捗報告会を実施。加えて、ロジックモデルを照会しながら全ての URA が URA 組織トップと年 3 回面談。このロジックモデルを利用した支援プログラムの PDCA サイクルを踏まえて、ロジックツリー・ロードマップを活用。

特筆すべき事項（定性的な現状・取組状況等）

- 博士人材を含む次世代研究者（ECR）のキャリアを取り巻く現状と課題を把握するために行ったヒアリング調査（100件以上）およびアンケート調査を分析し、その結果を学内の戦略調整会議に提供して若手ポスト確保の施策策定に貢献。また、それらの分析結果と次世代研究者（ECR）に関する学内支援組織との連携により、学内の支援情報を集約させたポータルサイトの基本設計を行った。
- 上記ヒアリング調査に基づき、博士課程学生を含む次世代研究者（ECR）の国際的な研究交流を促進するマッチングファンドプログラムを、URAが欧州拠点を活用してドイツ学術交流会（DAAD）との間で設立。ECRの双方向交流を通じて研究グループ間の国際共同研究を活性化。
- 日本の国立大学法人として初めてASEAN拠点がタイ政府よりNGO法人格を取得し、オールジャパン・オールASEANの学術交流の更なる発展に向けた海外拠点の基盤を構築。
- 日本の学术界における人文・社会学分野の牽引役を担うべく「人社未来系発信ユニット」を学内に設置。京都大学における学際的・部局横断的研究の促進や成果発信、およびそのための体制整備に着手。

【参考】論文の質に係る指標について

	Scopus		WoS	
	2013-2017 平均	2014-2018 平均	2013-2017 平均	2014-2018 平均
国際共著論文率	31.5 %	32.8 %	32.6 %	34.2 %
産学共著論文率	5.9 %	5.9 %	3.7 %	3.6 %
Top10%論文率	12.1 %	12.1 %	11.7 %	11.5 %

\* 2019年9月18日現在のデータを用いて算出

# 京都大学「研究大学強化促進事業」ロジックツリー【概要版】

将来構想

事業終了までのアウトカム  
(2021年度-2022年度)

中間的なアウトカム  
(2019年度-2020年度)

アウトプット  
(2019年度の取組)

アウトプット  
(2018年度の取組)

越境する「知」「人」を生み出し循環させる大学

新たな学術領域の創成	
指標(1)	国際・学際・産学融合研究プロジェクト実施数
指標(2)	新規大型プロジェクト代表者数
指標(3)	国際的に評価の高いジャーナル(Top5%)への掲載論文数
指標(4)	人文・社会科学の未来形に関する大綱策定・発信

国際協働の深化	
指標(5)	国際化推進支援のための海外拠点等設置数
指標(6)	学術交流協定の締結数
指標(7)	国際共著論文数
指標(8)	On-site Laboratoryの設置状況

多様な人材の育成・確保	
指標(9)	研究環境改善・キャリア形成の支援プログラム拡充
指標(10)	多様な人材の確保・育成状況

産官学共創の加速	
指標(11)	包括連携を含む大型共同研究件数の増加状況

エビデンスに基づく戦略的運営	
指標(12)	総長のリーダーシップによる学内改革推進状況
指標(13)	外部資金受入額の増加状況

学内URAの定着に向けた取組強化	
指標(14)	URA雇用の自主財源化・無期雇用化状況

国内URA制度定着への貢献	
指標(15)	省庁・企業人材・他大学URAとの人材交流状況
指標(16)	支援ノウハウの学内外展開のための研究会等開催状況

URAが定着し経営を支える大学

日本のURAシステムの先導的モデル大学

新たな学術領域の創成に向けた取組の強化	
指標①	新規融合研究拠点/ユニット等の設置状況
指標②	人社系を中心とするシンポジウム等の企画・開催状況
指標③	研究データオープン化推進状況

国際協働を深化する支援体制の構築	
指標④	URAが参画する全学的な国際化推進業務体制

多様な人材育成・確保に向けた環境改善	
指標⑤	外国人研究者支援体制の構築
指標⑥	国際アドミッション支援オフィスの設置
指標⑦	若手教員割合に関する目標達成に向けた取組方策の策定
指標⑧	博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)支援体制の再構成を踏まえた最適化
指標⑨	博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)支援

産官学共創の加速に向けた組織整備	
指標⑩	事業子会社を含む支援組織の全体最適化

エビデンスに基づく戦略的運営に向けた体制の構築	
指標⑪	学内改革に資するデータ分析・提供・提言のスキーム構築
指標⑫	外部資金獲得支援事業および学内ファンド事業の運営

URAシステムの高度化	
指標⑬	京大URAカリキュラムの受講者状況
指標⑭	国内外URAコミュニティへの参加状況

URA人材・活動の質向上に向けた取組強化	
指標⑮	URA活動のアーカイブ化
指標⑯	URA活動の内容・成果のWEB発信

研究成果の発信支援(研究成果のWEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作)

「国民との科学技術対話」活動支援

融合チーム研究プログラム(SPIRITS)【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営・改善

分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営・改善

人文社会科学系の研究力強化のための学内ファンドの企画および成果発信イベントの企画・開催

研究データのオープン化のための第2回調査の実施。オープンデータ化ワークフローの作成

WPI拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動

海外大学とのMOU締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築支援

欧州・ASEAN拠点へのURA派遣・駐在日欧ASEANの三極連携機能の構築。ASEAN拠点についてはタイ政府よりNGO法人格を取得

北米拠点およびアフリカオフィスの運営支援

研究成果/研究資源の海外発信強化支援

海外研究ファンド獲得支援体制構築

On-site Laboratoryの設置と運営支援窓口の構築

外国人研究者支援(外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワークワーキング等)の体制の強化と機能の深化

博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)の研究環境の改善施策および研究キャリア形成支援(卓越大学院、OPERAプログラム等を通じた産学連携による若手支援等も含む)の実施、関連する調査分析・報告

若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営

学振特別研究員申請支援(説明会・模擬ヒアリング等)の体系化・効率化

博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)向け支援活動の実施(セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信)

オープンイノベーション機構の設置および事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携強化

研究シーズのライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営

URA無期雇用の実施

URA業務環境の整備(情報系等インフラの企画改善、業務物品整備、運営事務)

独自のURA研修・教育プログラムの継続実施(研究支援プログラムの企画・運営を担うリーダーを養成)

国内外のURAとのネットワーク強化

リサーチ・アドミニストレーションに関する研究会の企画・実施、学外研修受講

URA活動のアウトリーチ強化

URAの活動成果のアーカイブシステムの構築 全URAの活動内容を室内共有

研究成果の発信支援(研究成果のWEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作)

「国民との科学技術対話」活動支援

融合チーム研究プログラム(SPIRITS)【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営

分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営

自治体などと俯瞰的に未来社会と学術研究・科学技術の関係性を考えるための機会創出支援

人文社会科学系の研究力強化施策の実施および新たな成果発信方策の検討

研究データのオープン化のための先導調査

WPI拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動

海外大学とのMOU締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築支援

欧州・ASEAN拠点へのURA派遣・駐在

北米、アフリカ等の海外新拠点の設置支援

研究成果/研究資源の海外発信強化支援

海外研究ファンド獲得支援体制構築

On-site Laboratoryの構築支援

外国人研究者支援(外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワークワーキング等)の体制構築

次世代研究者の研究環境改善施策の実施および研究キャリア形成支援

若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営

事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携による共同研究等の推進

研究シーズ・産学連携事例のライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営

URA無期雇用転換の推進(学内調整・折衝)

URA業務環境の整備(情報系等インフラの企画改善、業務物品整備、運営事務)

独自のURA研修・教育プログラムの開発・実施

国内外のURAとのネットワーク強化

リサーチ・アドミニストレーションに関する研究会の企画・実施、学外研修受講

URA活動のアウトリーチ強化

URAの活動成果のアーカイブ化と展開

※ 本事業による取組の効果(他の事業等による影響を受けない)が検証可能である指標

※ 前年度の取組を発展させた繋がりのある取組

京都大学「研究大学強化促進事業」後期ロードマップ

(1) 事業実施計画

年度		2018	2019	2020	2021	2022	2023	
将来 構想	事業終了までの アウトカム	中間的なアウトカム						
		アウトプット						
新たな学術領域 の創成	新たな学術領域 の創成	融合チーム研究プログラム(SPIRITS)【国際型】【学際型】【産官学共創型】の企画・運営						
		分野横断研究の土壌を醸成するプラットフォーム構築事業の企画・運営						
		自治体などと俯瞰的に未来社会と学術研究・科学技術の関係性を考えるための機会創出支援						
		WPI 拠点ノウハウに基づく拠点形成支援と国際アウトリーチ活動						
		人文社会科学系の研究力強化施策の実施および新たな成果発信方策の検討	人文社会科学系の研究力強化のための学内ファンドの企画および成果発信イベントの企画・開催	人文社会科学系の研究力強化支援策の実施および新たな成果発信				
		研究データのオープン化のための先導調査	研究データのオープン化のための第2回調査を実施。オープンデータ化ワークフローの作成					
		指標①新規融合研究拠点/ユニット等の設置状況	新規拠点/ユニット設置数 5 件					
		指標②人社系を中心とするシンポジウム等の企画・開催状況	2 回/年					
		指標③研究データオープン化推進状況			研究データのオープン化の試行			
		研究成果の発信支援(研究成果の WEB・メディア発信、海外向け発信媒体の制作)						
「国民との科学・技術対話」活動支援								
指標(1) 国際・学際・産学融合研究プロジェクト実施数						200 件(2013 年度以降累積)		
指標(2) 新規大型プロジェクト代表者数						300 人(2013 年度以降累積)		
指標(3) 国際的に評価の高いジャーナル(Top5%)への掲載論文数				1,000 篇/年				
指標(4) 人文・社会科学の未来形に関する大綱策定・発信							大綱の策定と研究成果の国内外発信	
越境する知「入」を生み出し循環させる大学	国際協働の深化	海外大学との MOU 締結支援、国際シンポジウム等の開催支援による国際共同研究・プロジェクトの創出支援、海外研究機関等との戦略的パートナーシップ構築支援						
		欧州・ASEAN 拠点への URA 派遣・駐在	欧州・ASEAN 拠点への URA 派遣・駐在 日欧 ASEAN の三極連携機能の構築。ASEAN 拠点についてはタイ政府より NGO 法人格を取得					
		北米、アフリカ等の海外拠点等の設置支援	北米、アフリカ等の海外拠点等の運営支援					
		研究成果/研究資源の海外発信強化支援						
		海外研究ファンド獲得支援体制構築			海外研究ファンド獲得支援の拡充			
		On-site Laboratory の構築支援	On-site Laboratory の設置と運営支援窓口の構築					
		指標④URA が参画する全学的な国際化推進業務体制			URA が参画する全学的な国際化推進業務体制と組織の整備			
		指標(5) 国際化推進支援のための海外拠点等設置数						5ヶ所
		指標(6) 学術交流協定の締結数						200 件
		指標(7) 国際共著論文数				2,900 本		
指標(8) On-site Laboratory の設置状況				On-site Laboratory の設置 5 件				
多様な人材の育成・確保	多様な人材の育成・確保	外国人研究者支援(外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーク)の体制構築						
		外国人研究者支援(外部資金獲得支援、外国人研究者ネットワーク等)の体制の強化と機能の深化						
		外国人研究者支援の拡充						
		博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)の研究環境改善施策の実施および研究キャリア形成支援						
		若手・中堅研究者をターゲットとする学内ファンドの企画・運営						
		指標⑤外国人研究者支援体制の構築			外国人研究者支援プログラムの体系化			
		指標⑥国際アドミッション支援オフィスの設置			制度設計完了			
		指標⑦若手教員割合に関する目標達成に向けた取組方策の策定			方策案の策定			
		指標⑧博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)支援体制の再構成を踏まえた最適化			博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)の研究環境の改善施策および研究キャリア形成支援(卓越大学院、OPERA プログラム等を通じた産学連携による若手支援等も含む)の実施、関連する調査分析・報告	学内支援組織・体制の最適化の完了		
		指標⑨博士課程人材を含む次世代研究者(ECR)支援			学振特別研究員申請支援(説明会・模擬ヒアリング等)の体系化・効率化			

				博士課程人材を含む次世代研究者(ESR)向け支援活動の実施(セミナーの実施、メーリングリストによる情報配信)			
	指標(9) 研究環境改善・キャリア形成の支援プログラム拡充						支援プログラムの自主財源運営化 テニュアトラック教員通算 40 人
	指標(10) 多様な人材の確保・育成状況				留学生数通期 3,450 人		外国人教員等数 500 人
	<b>産官学共創の加速</b>	<b>産官学共創の加速に向けた組織整備</b>	事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携による共同研究等の推進				
		指標⑩事業子会社を含む支援組織の全体最適化	オープンイノベーション機構の設置および事業子会社、学術研究支援室、産官学連携推進本部の連携強化	オープンイノベーションを推進する新組織整備			
			研究シーズ・産学連携事例のライブラリ化、産連マッチングイベントの企画・運営				
	指標(11) 包括連携を含む大型共同研究件数の増加状況						16 件(累積)
URA が定着し経営を支える大学	<b>エビデンスに基づく戦略的運営</b>	<b>エビデンスに基づく戦略的運営に向けた体制の構築</b>	研究戦略マネジメントのための「IR」の実施 大学経営や研究戦略の企画等を検討するプロボストオフィスおよび戦略調整会議(カウンスル)の運営支援 公的外部研究資金の獲得支援(申請支援、模擬ヒアリング等)				
		指標⑪学内改革に資するデータ分析・提供・提言のスキーム構築			データ分析・提供・提言スキームの確立		
		指標⑫外部資金獲得支援事業および学内ファンド事業の運営			外部資金受入額の増加に資する外部資金獲得支援事業と学内ファンド事業の最適化		
	指標(12) 総長のリーダーシップによる学内改革推進状況						プロボストとカウンスルを中心とする大学構想実現のための調整スキーム確立
	指標(13) 外部資金受入額の増加状況					外部資金受入額 130 億円増(2012 年度比)	
	<b>学内 URA の定着に向けた取組強化</b>	URA 無期雇用転換の推進(学内調整・折衝) URA 業務環境の整備(情報系等インフラの企画改善、業務物品整備、運営事務)					
	指標(14) URA 雇用の自主財源化・無期雇用化状況			URA 無期雇用の実施			URA 雇用費用の自主財源割合 80% 無期雇用化 URA 数 25 人
日本の URA システムの先導的モデル大学	<b>国内 URA 制度定着への貢献</b>	<b>URA システムの高度化</b>	独自の URA 研修・教育プログラムの開発・実施 国内外の URA とのネットワーク強化				独自の URA 研修・教育プログラムの実施
		指標⑬京大 URA カリキュラムの受講者状況			受講者数延べ 90 人(2013 年度以降累積)		
	指標⑭国内外 URA コミュニティへの参加状況				参加者数延べ 100 人(2017 年以降累積)		
	<b>URA 人材・活動の質向上に向けた取組強化</b>	リサーチ・アドミニストレーションに関する研究会の企画・実施、学外研修受講 URA 活動のアウトリーチ強化 URA の活動成果のアーカイブ化と展開 URA の活動成果のアーカイブシステムの構築 全 URA の活動内容を室内共有					
		指標⑮ URA 活動のアーカイブ化			アーカイブシステムの構築		
		指標⑯ URA 活動の内容・成果の WEB 発信			活動内容・成果コンテンツ発信 200 件(2018 年度以降累積)		
	指標(15) 省庁・企業人材・他大学 URA 等との人材交流状況						省庁・企業・他大学等との人材交流の実施
指標(16) 支援ノウハウの学内外展開のための研究会等開催状況						研究会等開催数 25 件(2017 年以降累積)	